

教員向け講座

「SDGsの基本を理解し、授業に取り入れよう」



阿部 昭彦さん
一般社団法人SDGs未来ラボ代表理事。
各種SDGs認定ファシリテーターとして九州・沖縄を中心に活動中。

SDGsの基本を理解し、授業への取り入れ方を学ぼうと2022年8月、宮古島市で教員対象の講座が開かれました。講師を務めたのは、学校や企業で講演や研修を行うSDGs未来ラボ(福岡県)の阿部昭彦さんです。

まずSDGsの概要と、授業に取り入れるときの考え方について講演を聞いた後、参加者の教員たち自身が、SDGsをテーマにした「まわし読み新聞」づくりを体験しました。「まわし読み新聞」は、新聞を読んでSDGsに関わると考えた記事を切り抜き、理由やコメントを書き加えて、グループで1枚の新聞を完成させます。参加者は「身近なところにSDGsを学ぶ材料があると分かった」「同じ記事でも人によって視点が違う」とさまざまな発見をしていました。前半の講演内容を紹介します。

※「まわし読み新聞」の詳細はP12~13に掲載しています。

地球の現状は？

子どもたちにSDGsを話すとき、私たち教師自身がどれくらいSDGsを理解して、自分の言葉で生徒に話せるかが大切です。「また新しい仕事が増える」と警戒する先生も多いのですが、SDGsには、普段から子どもたちに伝えていることを言い換えただけというものがたくさんあります。

SDGsを「自分ごと化」するために、私はこんなたとえ話を使います。

友達のあきひこくんは月給20万円ですが、車やおしゃれが好きで毎月の支出は35万円。不足分は親から仕送りをしてもらっています。あなたなら、あきひこくんにどんな言葉をかけますか？

毎月の支出 35万円
15万円 仕送り
20万円 月給

「エコロジカルフットプリント」という指標があります。私たち人類が消費している地球の資源の量を示し、世界では今、地球1.75個分の資源を消費しています。20万円の月給で毎月35万円を使っているのと同じ状況にいるのです。

似た考え方に「アース・オーバーシュート・デイ」があります。地球が供給できる資源の量を1年間に置き

換えて、その資源を人類が何月何日に使い尽くすかを示します。2019年は7月29日でした。その年の分を使い尽くした7月30日以降は、将来世代の分の資源を使っていることとなります。2020年は8月22日に伸びました。世界的なコロナ禍でさまざまな社会活動が制限されたからで、2022年は7月28日に戻ってしまいました。

日本だけで計算すると2022年は5月6日。1年の3分の1、ゴールデンウィークの頃には1年分の資源を使い尽くして、地球3個分もの資源を使っていることとなります。

エコロジカルフットプリント

世界
地球1.75個分の資源を消費

アース・オーバーシュート・デイ

2022年 5月
2022年5月6日
1年分の資源を使い果たしてしまう日

日本
将来世代の資源を使ってるんだね

私の生活とどう関係するの？

このような生活の結果、世界では熱帯の森が消え、海から魚が消えています。このような状況への強い危機感から、世界中が話し合い、未来を変える行動を起こすための17目標を定めた決議書がSDGsです。世界中のおとなも子どもも、みんなが主役になって参加し、目指していく目標なのです。

この決議書には3つの大切なキーワードがあります。

- ① 誰も置き去りにしない
- ② 私たちの世界を変革する
- ③ 経済・社会・環境の調和

①について、SDGsの前身であるMDGs(ミレニアム開発目標)は一部の人や地域が置き去りにされたという課題が残りました。また、先進国でも格差が広がるなど新たな問題が生まれています。そこでSDGsは、先進国も途上国も、世界のみみんなが参加し共に取り組もうと定められました。



②について、SDGsは世界を変革する行動計画ですが、この「変革」を示す原文の英語「transformation」はイモムシがチョウになるような、全く異なるものになることを意味します。改善するくらいでは足りないところまで、地球は追い込まれているのです。宿題を提出日に間に合わせるためにあの手この手で工夫をし徹夜をして終わらせるように、目標を達成するために工夫する「バックキャスト」で、現在の常識にとらわれず社会を変えていく必要があります。その点で若者の新しい発想力は大きな力になります。



③について、日本ではSDGsというと環境問題が目立ちますが、それだけではありません。環境や社会を良くするために経済活動を上手に使うこと、つまり世界のお金の流れを変えることが大事です。皆さんにできることのひとつがエシカル消費[※]です。文房具でもおやつでも、買う物を選ぶことで普段の生活からお金の流れを変え、社会を変えることができます。



※エシカル消費とは：社会や環境に配慮した商品を選んで購入すること。商品やサービスの裏にあるストーリーに思いをめぐらせることで、日々の買い物から社会の課題解決に貢献することができます。

世界はつながっている、そして私も起点

17のゴールはすべて関連し合っています。例えば学校はゴール4「質の高い教育」を頑張っていますが、それを支える教員の労働環境は厳しく、ゴール8「働きがいも経済成長も」には課題が残ります。また教育と健康や貧困は切っても切り離せません。どれか一つだけやればいいのではなく、一つもおろそかにすることはできないのです。



日本社会は「環境か経済か」といった二者択一を長く続けてきました。どれかを優先してどれかに負担を掛けるのではなく、バランスを取ることをSDGsは目指しています。経済を回しながら社会や環境も良くするのがSDGsのメッセージであり、世界中がこの方向で動き始めています。だからこそ日本の文科省も学習指導要領に盛り込んでいるのです。

後でチョコレートやポテトチップスの例を出しますが、消費者が安い物を求めると、製造メーカーは安く作る工夫をし、その結果、地球環境を破壊したり、生産者を安く使うことで貧困や学校に通えない子どもを生み出す…といった負の連鎖が起きます。逆に、私たちが値段以外にも目配りして買い物をすることで、森林が守られ、地球温暖化に歯止めをかけ、生産者は所得を確保して教育を受ける…という正の連鎖に変えることができます。「物を買う」という行為は同じですが、買う物を選ぶことが未来を選ぶことにつながっていくのです。



日本では「自分がやらなくても誰かがやってくれる」と待つ人が多いと言われます。しかし2022年現在の世界はこれまでの生活の積み重ねの上であり、2030年、2050年は、私たちがこれから積み重ねる毎日の先にあります。毎日をしっかり考えて生きることが未来を創る唯一の方法であり、課題解決するのは私たち以外にいないのです。「世界はつながっていて、私も世界を作っている」という実感を持ち、未来のためにどんな毎日過ごすのかを考えることが大切です。そのことをぜひ子どもたちに伝えていきたいと思います。

正解なし、ワクワクを大切に

SDGsにはゴールは示されていますが、達成までの方法は提示されていません。国によってスタート地点も使えるものも異なり、決まった「正解」はないのです。教室でも「これをやるのがSDGsですよ」と「正解」を教えることはできません。生徒1人1人が「これができるのでは」という視点を持てるようにすることがSDGs教育に求められています。



人は他者に共感することで行動します。その共感を生むのは、誰かの行動です。「はちどりのひとしずく」というお話があります。山火事を消そうと、小さなハチドリが一滴ずつ何度も何度も水を運びます。私は子どもたちに「その姿を見て、ほかの動物たちはどう行動しただろう」と問いかけます。動物たちはきっと自分でできることをし始めただろうし、そ



れはハチドリの行動に共感したからだと思います。生徒たちは私たち教師の行動をよく見ています。教室で何を伝えるかと同時に、教員自身がどんな行動をするかも考えていきたいところです。

例えば、マイボトルを持参すること、フェアトレードのお菓子やエシカル消費の認証マークの付いたコーヒーを買って話題にすること、今朝のニュースを共有することなど、学校にいる間にできることはたくさんあります。「ぼくはこんなことしてるけど、あなたはどうか?」と行動で示すと、子どもたちにSDGsの精神が伝わっていくと思います。

いつの時代になってもワクワクする未来が用意されている社会をつくるために取り組むのがSDGsではないかと思っています。正しさや正義はなかなか仲間を集められず、行動につながりにくいところがあります。楽しさやワクワクを基準にSDGsを学ぶと、子どもたちも1歩を踏み出しやすくなるのではないのでしょうか。



学校単位で取り組みを

学習指導要領によると、ESDが目指すのは

- ① 個人の成長
- ② 多様性理解
- ③ 社会への参画意識

の3点で、特に③が重要になります。

これらを実現するのに重要なのがカリキュラムマネジメントです。ESDでは教科横断的な取り組みがクローズアップされています。**一教科ではなく、学校全体の教育目標を設定し、学校単位で取り組む視点が大切**です。うまく進めるには、学校外の地域の団体と連携を考えることも重要になります。

例えば大分県教委では、まず学校全体の教育目標があり、その中で各教科の役割を位置付けています。伊豆大島(東京都)の大島町つばき小学校は、学校の教育活動全体をSDGsの17ゴールに落とし込んでいます。各教科・単元がどのゴールに当たるかを割り振って、教科での関わりを示しています。いずれもポイントは学校全体の取り組みが中心にあることです。

いまSDGsを教科の授業にどう取り入れていいかわからず困っている先生がたくさんいます。教科単位ではなく学校単位として何を指すのかが、時間がかかりますが、とても大切な視点になります。



大分県教育委員会

<https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/post-124.html>



授業づくり のアイデア

？ チョコレートやポテトチップスを買うときに安いと嬉しい。でも、自分が作る人だったら？ 安くできるのはどうしてなんだろう？



私たちが安い物をほしがあると、企業は安く作る工夫をします。そうしないと売れないからです。

▶ 安いチョコレートを作るために、児童労働が発生しています。いろいろな理由で学校に行けない子どもは世界では10人に1人。教育が受けられないと希望の仕事に就けず、所得を上げられないので、その子どももまた教育を受けられない「貧困の世代間連鎖」につながります。



▶ 安いポテトチップスを作るために、パーム油を安く大量にとろうと、熱帯雨林を切り開き、広大な農園でパームヤシを栽培するプランテーションが行われています。ジャングルが丸坊主にされることで二酸化炭素の吸収量が減り、地球温暖化が進んだり、生き物のすみかが失われたりしています。パーム油はアイスクリームやシャンプーなどにも使われ、先進国の生活を支えています。



！ ぼくらの毎日の買い物が、他国の子どもの教育や自然環境につながっていることに気付こう。これらの問題に対して、できることは何だろう？

● SDGsは2015年、国連加盟国すべてによる全会一致で決まりました。これを「クラス全員一致で何かを決めたことあるかな」とクラスに置き換えてみるのも一つです。



● 17ゴールの下には169のターゲットがあり、何の数値をいつまでにどうするか、具体的な目標が書かれており、具体的に何を目指すのかが理解しやすくなります。生徒が興味のある項目を探ることもできます。ぜひ一読をお勧めします。



● 17ゴールのうち、ゴール14「海の豊かさ」は子どもたちにも身近です。いま何もしなければ、2050年に海ごみの総量が魚の総量よりも重くなると言われています。これに対して「何をすればいいだろう？」と考えることができます。16「平和と公正」は平和教育として、修学旅行を活用する学校もたくさんあります。



▶ 阿部先生の講演動画はこちらから視聴できます



沖縄県 SDGs教材チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCZL8rYktEiBasbWHwMVHfnw>

SDGs理解のために「阿部先生のおすすめ動画」



横浜銀行「SDGsムービー～はじめてのSDGs～」

<https://www.youtube.com/watch?v=QLMWzKtfvAs>



ベネッセ「SDGsってなんだろう？」

https://www.benesse.co.jp/brand/about/about_sustainability/movie/